

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	神奈川県・伊勢原市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	伊勢原市歴史文化遺産地域活性化推進計画	【計画の改善時期】 平成 3 4 年度	
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
伊勢原市文化財保護条例（平成25年全部改正）、伊勢原市歴史文化基本構想（平成28年策定）及び伊勢原市教育振興基本計画に位置付ける、歴史・文化遺産を市民に身近なものとし、市民の手で歴史や文化遺産を継承、活用していく取組として、次の事業を実施する。 (1) 和文・英文併記ガイドブック作成事業 (2) 歴史講演会 (3) 文化財ウォーク (4) 資料館及び建造物の公開事業 (5) 市内文化財調査研究活動展示会 (6) 大山能狂言講演会 (7) 文化財フェスタ			
6 実施体制			
伊勢原市教育委員会が、本実施計画に係る全体の企画・調整や、各補助事業に係る指導等を行う。担当課、役割は下記のとおり。 ○教育委員会教育総務課：文化遺産等に関すること また、補助事業は次の団体が実施する。 ○伊勢原歴史文化遺産活用実行委員会 構成団体：伊勢原市文化財協会、伊勢原郷土史研究会、（NPO）雨岳文庫を活用する会、 （一社）伊勢原市観光協会、ISEHARA・おもてなし隊、伊勢原観光ボランティアガイド&ウォーク協会 （全6団体）			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成29年度交付決定額： 28, 418 千円	平成30年度申請額： 2, 362 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
○地域の結束力の強化 行政と民間団体による連携・協力体制を構築することができる。特に、文化財関係団体と観光関係団体が各種の事業を協力して実施することで、施策横断的な文化財活用の推進が期待でき、文化財を生かしたまちづくりへとつなげることができる。 ○文化財の確実な継承 文化財を活用した活動を通じて、文化財を後世に継承すべきものとして捉える意識の定着につながる。さらに個々の文化財をその周辺環境と一体的に保護・活用することの必要性が認識・周知され、それらを実践することで、地域の魅力の向上につながり、社会全体が文化財を保護するという気運にもつながる。 ○市の知名度向上とイメージアップ 各事業の確実な実施により、伊勢原市の知名度向上・イメージアップにつなげることができる。 ○観光客の増加と地域振興 伊勢原の歴史や文化財の魅力を情報発信することで、市外や海外からの観光客の増加と地域振興へとつなげることができる。			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	・各団体による自主財源により、講演会、調査報告会、ウォーク等を実施予定。		
事業概要：	・市教育委員会による自主事業で、各団体への高齢化をとどめ、新たな人材の供給、団体同士の情報共有・コミュニケーションの向上及び各自の資質向上を目的に歴史解説アドバイザー養成講座を行う。（平成30年度は第5期生を対象とした講座を実施中）		
事業概要：	・文化庁の「日本遺産魅力発信推進事業」補助金による、伊勢原市の認定されたストーリーである「大山詣り」を通じた地域活性化事業。（平成30年度事業額10, 000千円）		
事業概要：	・文化庁の「歴史文化基本構想を活かした観光拠点づくり事業」補助金による、伊勢原市の観光拠点づくりに資する取組を推進。（平成30年度事業額25, 823千円）		
事業概要：	・神奈川県の新たな観光の核づくり促進交付金による、厚木市、秦野市と共同の「平成大山講プロジェクト」事業。多言語対応観光パンフレットの作成や浮世絵刷り体験等を実施し、国際観光地化を目指す取組を推進。（平成30年度事業額18, 135千円）		

11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等	
平成28年1月に伊勢原市歴史文化基本構想を策定。	
12 担当部局	
地方公共団体 担当部局課	伊勢原市教育委員会教育部教育総務課

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1：	地域の文化資源を活用した集客・交流				
評価指標区分 1：	その他（具体的な指標は次のとおり）				
具体的な指標 1：	伊勢原市の観光客入込み客数		関連事業：	①、②、③	
目標値 1：	【現状値】 平成 28 年度 約185万 人 ⇒ 【目標値】 平成 34 年度 約270万 人				
設定根拠 1：	江戸時代、江戸の人口が100万人の時代に、年間20万人(1/5)の人々が当市所在の大山へ参拝に訪れたといわれており、平成27年11月1日現在の東京都の人口1350万人の1/5の人数を目標値とした。				
進捗状況 1：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
約190万 人	人	人	人	人	人
集計中					

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	和文・英文併記ガイドブック作成事業				実施団体：	伊勢原観光ボランティアガイド&ウォーク協会	
事業区分：	情報発信				事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度	
事業概要：	和文・英文併記の大山地域全体を紹介するガイドブックの作成						
評価指標区分：	・その他					(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	伊勢原市の観光入込み客数						
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 約185万 人 ⇒ 【目標値】 平成 34 年度 270万 人						
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度		
約190万 人	人	人	人	人	人		
集計中							
事業②：	・歴史講演会 ・文化財ウォーク ・資料館及び建造物の公開事業 ・展示報告会事業 ・大山能狂言講演会 ・文化財フェスタ			実施団体：	・伊勢原市文化財協会 ・伊勢原郷土史研究会 ・NPO法人雨岳文庫を活用する会 ・伊勢原市観光協会 ・ISEHARA・おもてなし隊 ・伊勢原歴史文化遺産活用実行委員会		
事業区分：	普及啓発			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：	1 歴史講演会（3回） ・内容：地域に根ざした文化遺産をテーマとした歴史講演会を実施する。 2 文化財ウォーク（6回） ・内容：文化遺産が所在する地域を定め、史跡めぐりを実施する。 3 資料館及び建造物の公開事業 ・内容：山口家住宅の資料館及び建造物を公開し、来館者に解説をする。 4 民俗・文化財調査研究活動展示会 ・内容：市内の文化財・民俗調査の活動成果を展示する。 5 大山能狂言講演会 内容：市内の中学生を対象に市指定民俗文化財である「大山能狂言」の講演会を開催。 6 文化財フェスタ 内容：文化財関連団体の活動展示のほか、市指定文化財である「大山能狂言」の講演、「大山こま」製作技術の実演、市登録文化財である「神木のぼり」の実演など。						
評価指標区分：	・フェスティバル出演団体の保存会会員数					(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	・大山能楽社保存会の会員数（H29.11月時点：12人） ・宝城坊神木のぼり保存会の会員数（H29年11月時点：8人）						
目標値：	【現状値】 平成 29 年度 20 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 24 人						
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度		
20 人	人	人	人	人	人		
0%							